

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第222号

ななえ古写真物語

VOL.222

野藤多き山

藤城稲荷神社
昭和40年代か
藤城地区



一見すると茅葺き屋根の民家にも見えるが、かつての藤城稲荷神社の社殿(?)を写した一枚である。雨戸のようなもので覆われているため、中の様子はいかがいえないが、現在の社殿とは様相が異なるので、ひと昔前の社だと考えられる。何よりも、それほど大きくないが、茅葺きであったことに驚いた。現存していれば、趣のある神社だったろうにと、残念な気もする。

藤城稲荷神社の由緒は、寛政6年(1794年)までさかのぼる。祭神は倉稲魂命(うかのみたまのみこと)で、五穀豊穡をつかさどる神様といわれるので、古くから農業や山仕事を生業としていた藤城地区に祀られているのもうなずける。明治9年に藤山村社になり、その後、明治34年に火災に遭ったため、翌年に再築されたという。

一方、文久2年(1862年)に勧請されたという熊野神社が城山村にあり、須佐之男命(すさのおのみこと)を祀っていたのだが、明治40年に、この藤城稲荷神社に合祀された。

この2社については、合祀よりも前となる明治5年にまとめられた『神社御改正取調掛巡回日記』に、「藤山稲荷社、起源寛政年中、神体なし、祠一尺、拜殿三間方、神門二基、社地間口八間、奥行二十六間、城山郷熊野社、神体なし」と記されており、元々別だったことがわかる。

ところで、藤山村の始まりについては、諸説ある。明治期に編纂されたという『上磯亀田郡各村沿革史』には、「寛政六年、陸奥国伊達郡の人來往す。村に藤山と名号する山あり、依って藤山と名付く」とあるので、藤城稲荷神社(旧藤山稲荷社)の始まりとも一致し、村の草創時に稲荷社も勧請されたと想像できる。

ところが、220年ほど前に、秋田からわたった藤山の旧家が、土地の娘と結婚して定住し、その屋敷には古い水松(イチイ)の木があり、これは亀田八幡宮(現函館市)の前身が、ここに祀られていて、亀田へ移転する折に、記念のために植えたという口碑もある。もし、この説が本当ならば、亀田八幡宮があったという文献記録は、1500年代後半にさかのぼるようで、そうすると藤山村の起源も定説より古いことになるのだが、証拠となる資料について、今のところ私は見つけられていない。いずれにせよ、興味深い話である。

藤山村に隣接する城山村も、口碑に相原周防守政胤の居城が城岱にあったので、城山郷と名付けたと伝えられるが、こちらも文献的な裏付けはない。両村は、明治13年(14年ともいわれる)に合併し「藤城村」となった。いろいろ逸話の多い村だが、藤山村の由来にある通り、野藤多き山があったことは、間違いないようである。

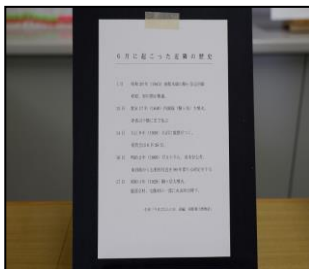
マッチラベルと絵はがきの寄贈

右の写真では、分かりにくいかもしれませんが、古いマッチのラベル帳と全国各地の絵はがきのコレクションの寄贈を受けました。昭和初期から集めたという、マッチラベルは、アルバムに整然と並べられていて、広告としてのマッチだけではない、当時のデザインのおもしろさもあります。絵はがきは、旅先のお土産として買い求めたもののコレクションや、美術館の展覧会に行ったときの記念など、個人のセンスが窺われるものでした。誰かの思い出が資料となり、保存され、展示される。博物館の役割の一コマです。



近隣に起こった歴史を掲示しています。

この春から、学習サービス室のカウンターに「近隣で起こった歴史」を掲示しています。6月は、昭和20年、6月1日に函館本線の駒ヶ岳迂回線の砂原、軍川間が開通。大正9年、6月14日に大沼に電燈がつき、26日に祝賀会が開かれるなど、郷土や近隣の歴史に興味をもつヒントになればと思い、始めました。関連する図書を読んで、さらに深めたり、ただ出来事を顧みるだけでも良いかと思えます。ご興味がある方は、ぜひご覧になって下さい。



23日 ジュニア探検クラブ

うららかな日曜の土曜日、本町地区を子どもたちと「まち歩き」をしました。古木や巨木、昆虫や野鳥、五感を使い、はじめて見るもの、触れるものに多く出会った時間でした。子どもたちの感想は、虫を一匹だけ触れるようになった。雑草の種類を知った。クズのツルを引っ張るのがおもしろかった、等々。特に巨木に興味をもったという子は、知ることは、とても気持ちの良いものだったと、話す姿に、たのもしさを感じる良い一日でした。



7月の予定

1	水	ロビー展開催中
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	休館日
7	火	
8	水	
9	木	夜の博物館第2夜
10	金	
11	土	
12	日	
13	月	休館日
14	火	
15	水	
16	木	
17	金	
18	土	
19	日	
20	月	海の日
21	火	休館日
22	水	
23	木	
24	金	
25	土	ジュニア探検クラブ
26	日	
27	月	休館日
28	火	
29	水	
30	木	
31	金	

※休館日：6日、13日、21日、27日

筵編み機

展示しているこちらは、俵編み機ではなく、筵編み機。麴(こうじ)むしる用の小型の編み機です。



編集後記 ~tawagoto~

野草園を整備していたら、植えているヤマボウシのことで聞かれた。ハナミズキも近くにあることを知人から聞いたという。ヤマボウシとハナミズキの見分け方は、花びらに見える総苞片の先が、尖っているのが、ヤマボウシ、凹んでいるのが、ハナミズキだ。しばしば聞かれる、上を向いてなる赤い実は、食べられるか?はどうぞ確かめてみて下さい。味の好みはそれぞれ。興味ある方、いざ実食!

Pichart ~ピチャリ~

第222号

令和8年(2026年)6月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp